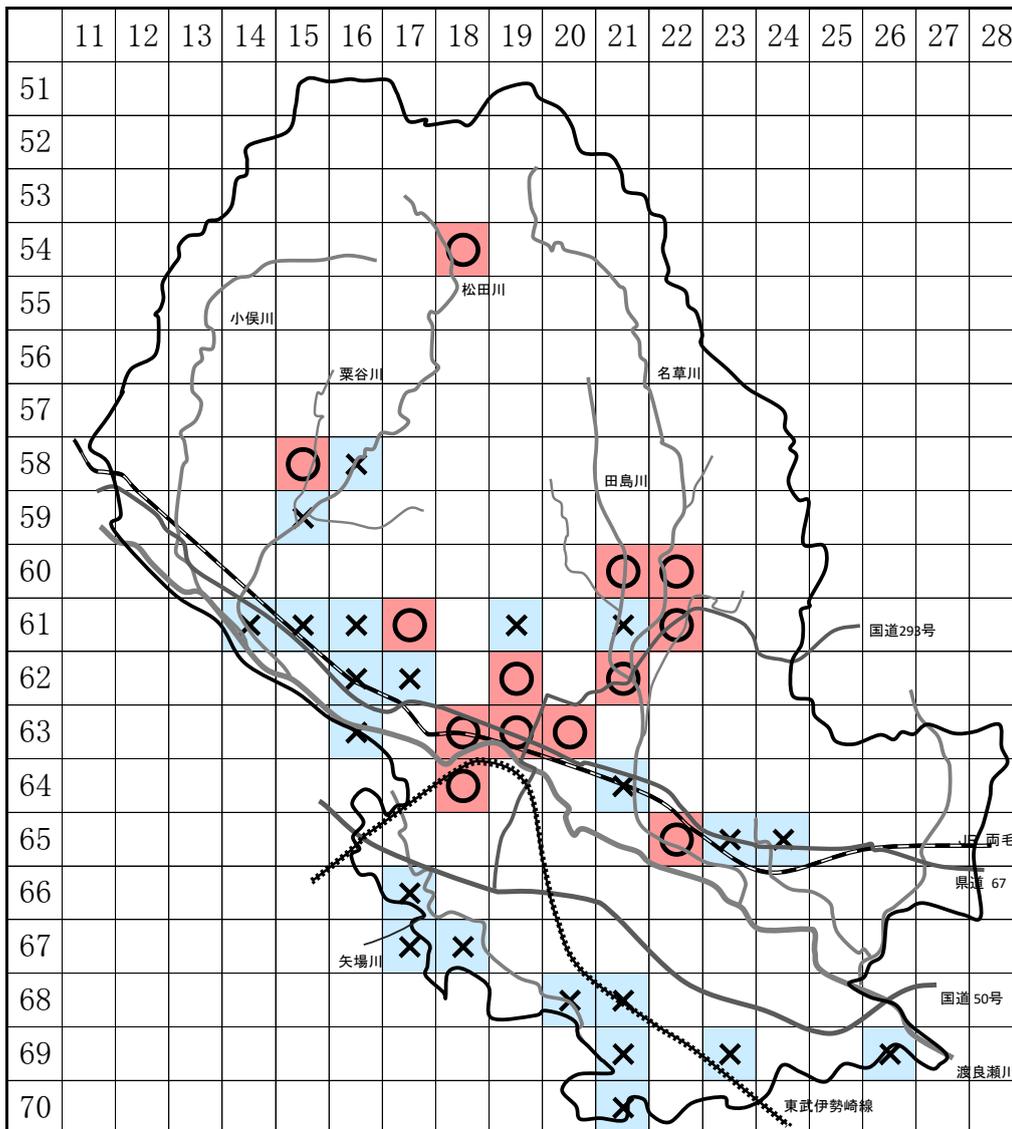
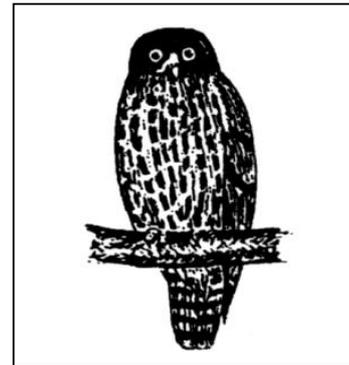


Ⅱ 調査結果

1 身近な生き物調査結果

アオバズク	確認数： 13 メッシュ
	報告数： 35 メッシュ
	2020年度 14/31 2019年度 20/55

※過年度 確認数/報告数



ハトぐらいの大きさ
でフクロウの仲間。青
葉の茂る頃に飛来する
夏鳥である。胸から腹
にかけてまだら模様で
あるが、全体的にこげ
茶色である。神社や
寺、公園などの林で、
日中はほとんど動かない
が、夜になると蛾や
その他の昆虫をねらっ
て活動する。よくとお
る声で「ホッホー、
ホッホー」と鳴き続け
る。

かんさつてきき
観察適期
5月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

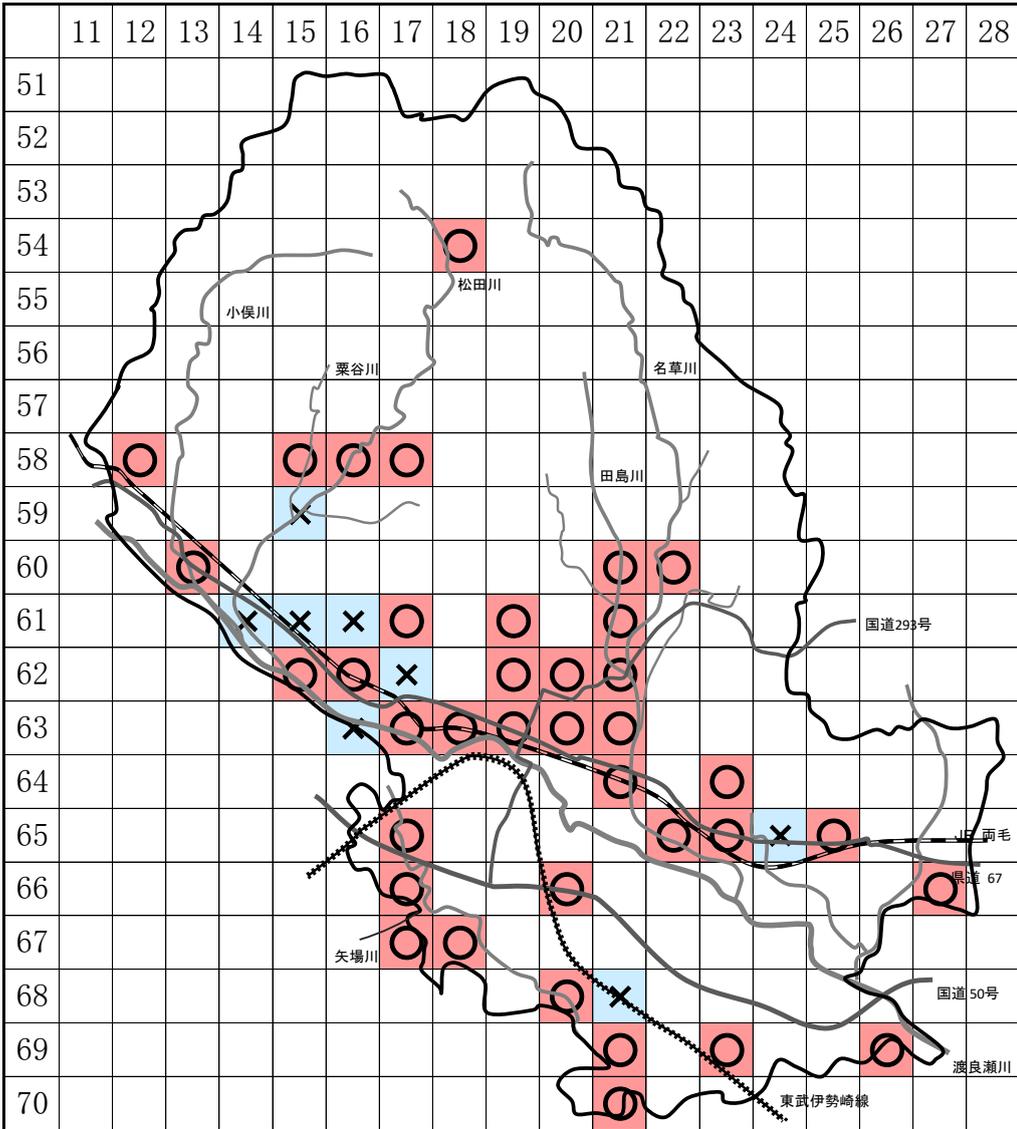
調査結果

アオバズクは代表的な夜行性の鳥です。昔から生息数の少ない野鳥として写真家だけでなく生き物マニアから関心を寄せられていました。なかにはフクロウと混同していた人もいたようです。

市の中心部に確認メッシュが集中しているのは、大日様（鑲阿寺）境内や足利学校の森がアオバズクの生息に適しているに違いありません。結果的には前年より1メッシュ減りましたが、前年並みと考えると良さそうです。夜間しか声がしないので、調査には努力が必要です。

シジュウカラ	確認数： 37 メッシュ
	報告数： 45 メッシュ
	2020年度 36/40 2019年度 33/56

※過年度 確認数/報告数



スズメぐらいの^{おお}大き
 さいで、林や樹木のある
 こうえんなどで^み普通に^{ふつう}見ら
 れる。頭が黒く、ほお
 が^{しろ}白く、のどから^{はら}腹に
 かけて黒いネクタイを
 しているように^{みえ}見え
 る。背中は灰色で^{みどり}緑が
 かっている。「ツツ
 ピー、ツツピー」とさ
 えずり、「チーチー、
 ジュクジュク」とも^な鳴
 く。とても動きが^{はや}速
 く、時々庭にも^{あらわ}現
 れる。

かんきつてきき
観察適期
 ねん かん
 年 間

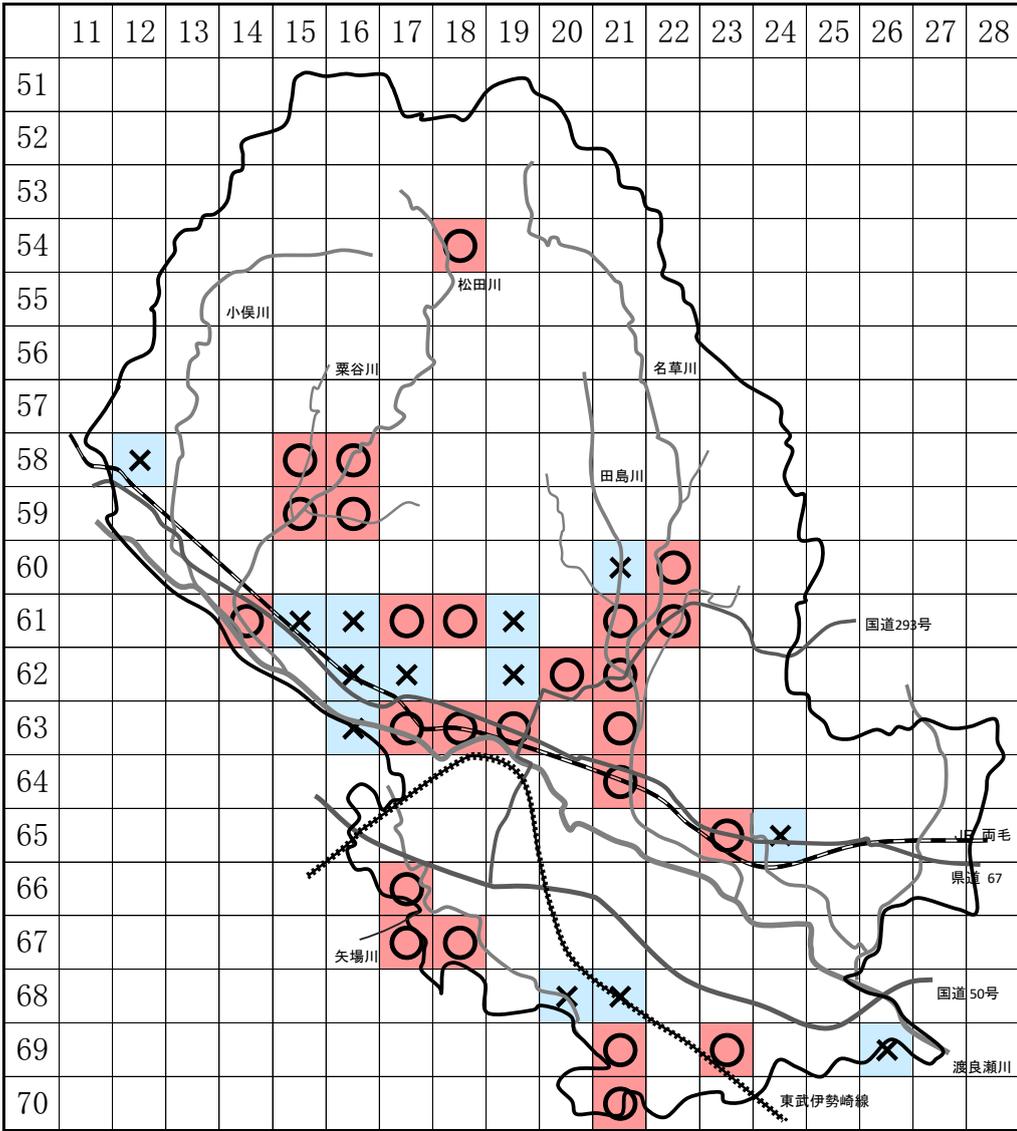
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

やちょうず ^{かた} 好きな方だけでなく、^{おお} 多くの人たちから ^{した} 親しまれている ^{ことり} 小鳥です。冗漫な話になりますが「私の財布
 はいつでも“しじゅう空”だよ」と会話の中でも用いられていました。
 しんりんせいそくせい ^{ことり} 森林生息性の小鳥と言われてきていますが、^{あしがが} 足利では人家の多い中心街にも時々姿を見せ、^{ぜんしてき} 全市的に生息
 しています。住宅街のテレビアンテナや電線にも普通に止まりますし、^{すばこ} 巣箱をよく利用する小鳥です。

カワセミ	確認数： 25 メッシュ
	報告数： 38 メッシュ
	2020年度 27/39 2019年度 31/56

※過年度 確認数/報告数



スズメよりやや^{おお}大きい。くちばしが長く背^{なが}中^{なか}がコバルトブルーで、腹^{はら}がオレンジ色の^{いろ}美しい^{うつく}鳥^{とり}である。水^{みず}辺^べに生^{せい}息^{そく}し、木^きの枝^{えだ}やクイ^こイ^いに止^とまって小^こ魚^{さかな}をねらい、ダイビングして捕^とらえる。水^{すい}面^{めん}すれすれに直^{ちよく}線^{せん}的^{てき}に飛^とび、「チーッ」あるいは「ツイー」と自^{じてん}転^{しゃ}車^のブレーキ^{おん}音^のような声^{こゑ}で鳴^なく。

かんさつできき
観察適期
ねん かん
年 間

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

昔^{むかし}から「水^{みず}辺^べの宝^{ほう}石^{せき}」と形^{けい}容^{よう}されるほどの美^{うつく}しい野^や鳥^{ちょう}で、バードウォッチャー^{あこが}憧^{まど}れの的^的になってい^います。大^{だい}日^{にち}様^{さま}（鑢^{ばん}阿^な寺^じ）や足^{あし}利^{りが}学^{がく}校^{こう}のお堀^{ほり}にも時^{とき}々^{とき}飛^と来^きしてい^います。前^{ぜん}年^{ねん}比^ひ2メッシュの減^{げん}少^{しょう}ですが、確^{かく}認^{にん}率^{りつ}66%は正^{しょう}直^{じき}なとこ^とろ驚^{おどろ}いてい^います。全^{ぜん}市^{してき}的^的に生^{せい}息^{そく}してい^いると思^{おも}って良^いいでしょう。

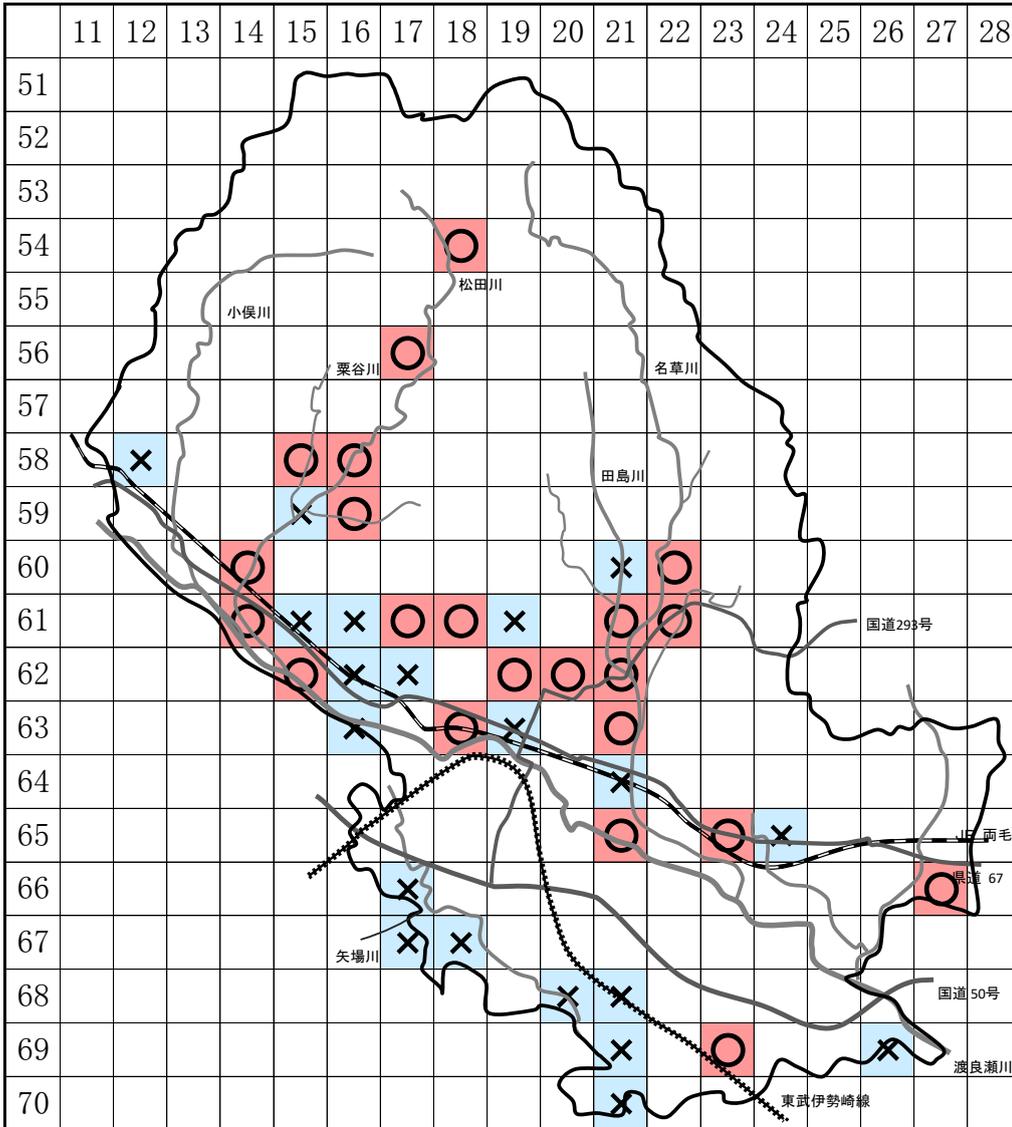
オオヨシキリ

確認数： 22 メッシュ

報告数： 42 メッシュ

2020年度 30/40 2019年度 23/57

※過年度 確認数/報告数



スズメより^{おお}大きい^{なつ}夏鳥で、4月末から5月にかけて、水辺の^{みずべ}開けた^{ひら}ヨシ原（アシ原）に飛^ひ来する。背^{せなか}中^{なか}が^{かつしよく}褐色、胸^{むね}から腹^{はら}にかけて^{たんかつ}淡褐色の^{めだ}目^だ立たない^{とり}鳥である。見^み通^{とお}しのよい、^ほぼ^き決^きまった^{ほしよ}場所^でで「ギョギョシ、ギョギョシ」と^{おお}大きな^{こえ}声^でで鳴^なき続^{つづ}けるが、8月になるとほとんど^な鳴^なかなくなる。

かんきつてきき
観察適期
5月～8月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

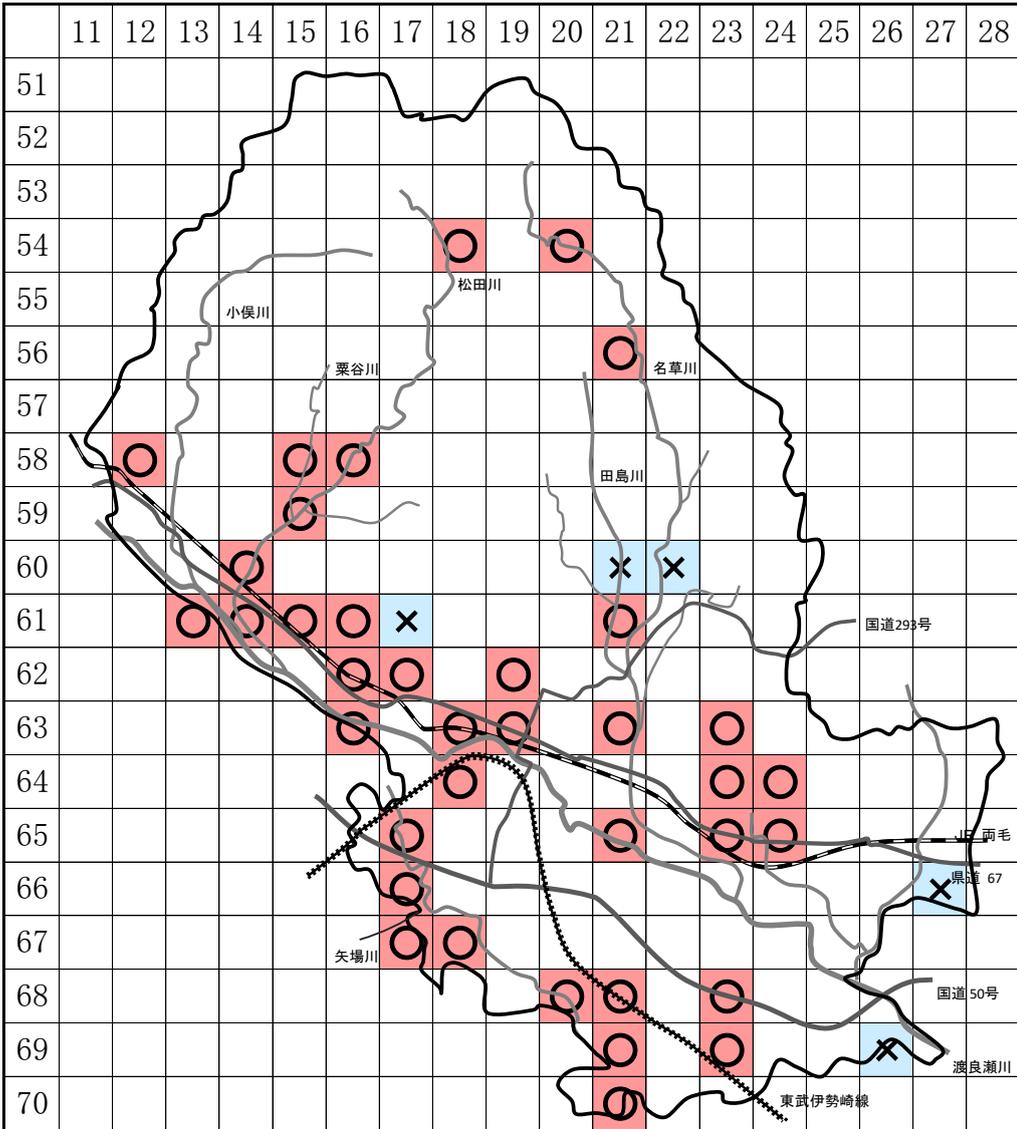
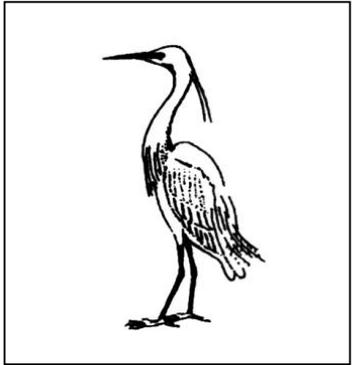
調査結果

市内には4月下旬頃に渡ってくる夏鳥です。特徴のある大きな声は季節感豊かで初夏の到来を感じさせます。

前年比8メッシュの減ですが確認率52%で、広いエリアに生息しています。今後、休耕地が増え、ヨシ原化が進むと生息範囲はさらに広がると思います。

コ サ ギ	確認数： 37 メッシュ
	報告数： 42 メッシュ
	2020年度 33/40 2019年度 40/56

※過年度 確認数/報告数



カラスよりもやや^{おお}大きく、四季を通して見られる^{ふつう}普通の^{しろ}白サギである。くちばしが^{くろ}黒く、^{しろ}白サギ類の中ではコサギだけが^{あしゆび}足指が黄色いである。^{かわ}川や^{ぬま}沼、^{すい}水田、^{しっち}湿地などで^{こさかな}小魚やアメリカザリガニ、カエルなどを捕らえる。

かんさつてきき
観察適期
ねん かん
年間

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

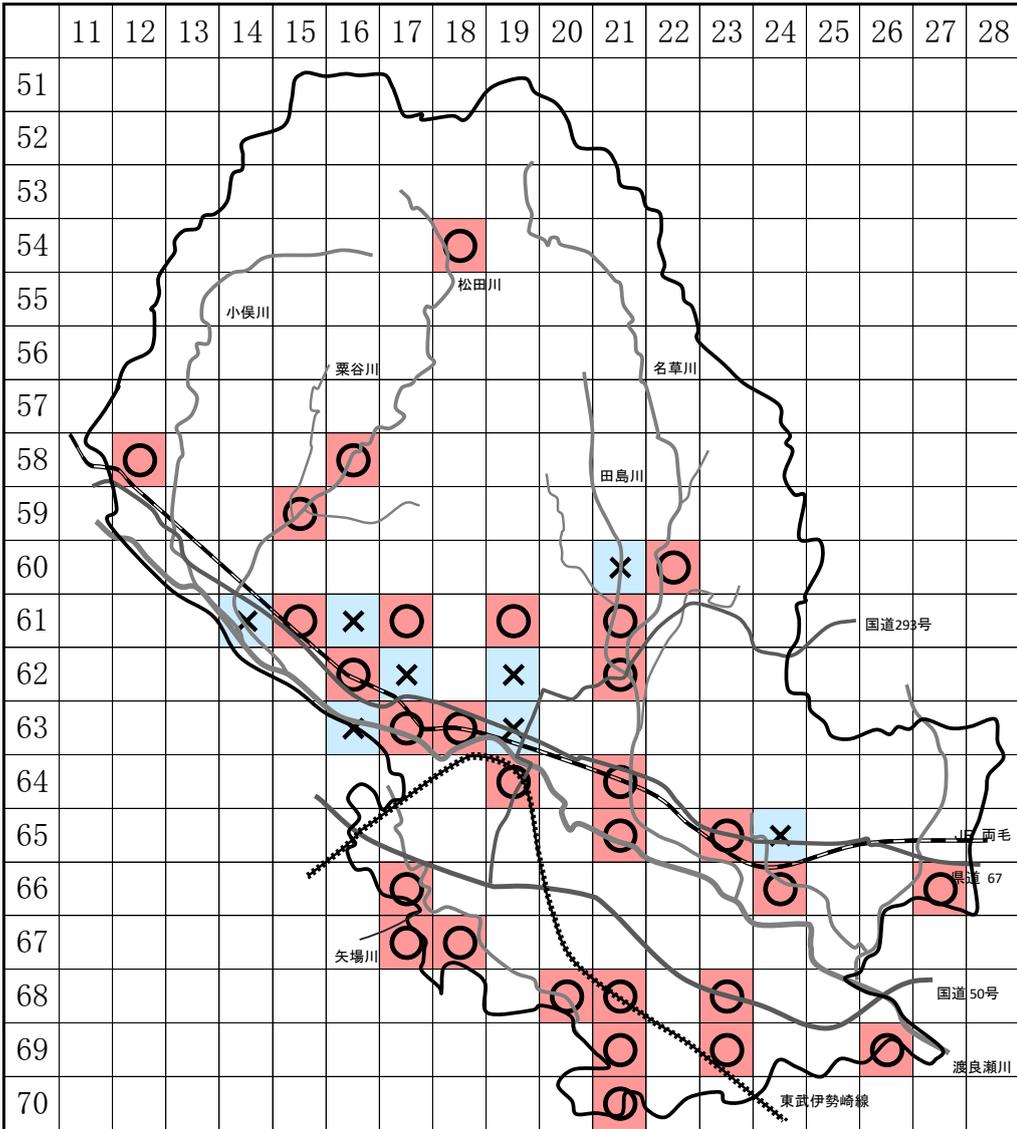
調査結果

ちょうさメッシュの^{だいぶぶん}大部分で^{せいそく}生息の^{ほうこく}報告がありました。なんと88%にもなります。ダイサギが^ふ増え、コサギが^へ減りつつある^{きん}昨今、これは^{おどろ}驚きでした。

にくがん^{しきべつ}肉眼だけでは^{たいへん}識別が大変ですが、^{あしゆび}足首から^{さき}先の^{ぶぶん}部分、^{あしゆび}足指の^{きいろ}黄色、これを^{さいかくにん}再確認してください。

ヒ バ リ	確認数： 29 メッシュ
	報告数： 37 メッシュ
	2020年度 23/33 2018年度 27/54

※過年度 確認数/報告数



スズメより少し大きく、広々とした河原や農耕地などにすむ。色はスズメより少し淡い褐色だが模様は似ている。早春から大空高く舞い上がり、宙に留まりながら「ピーチュク、ピーチュク」と長く鳴き続ける。地上では頭の羽毛を立てている時が多く、虫や草の種子をあさっている。

かんさつてきき
観察適期
ねん かん
年 間

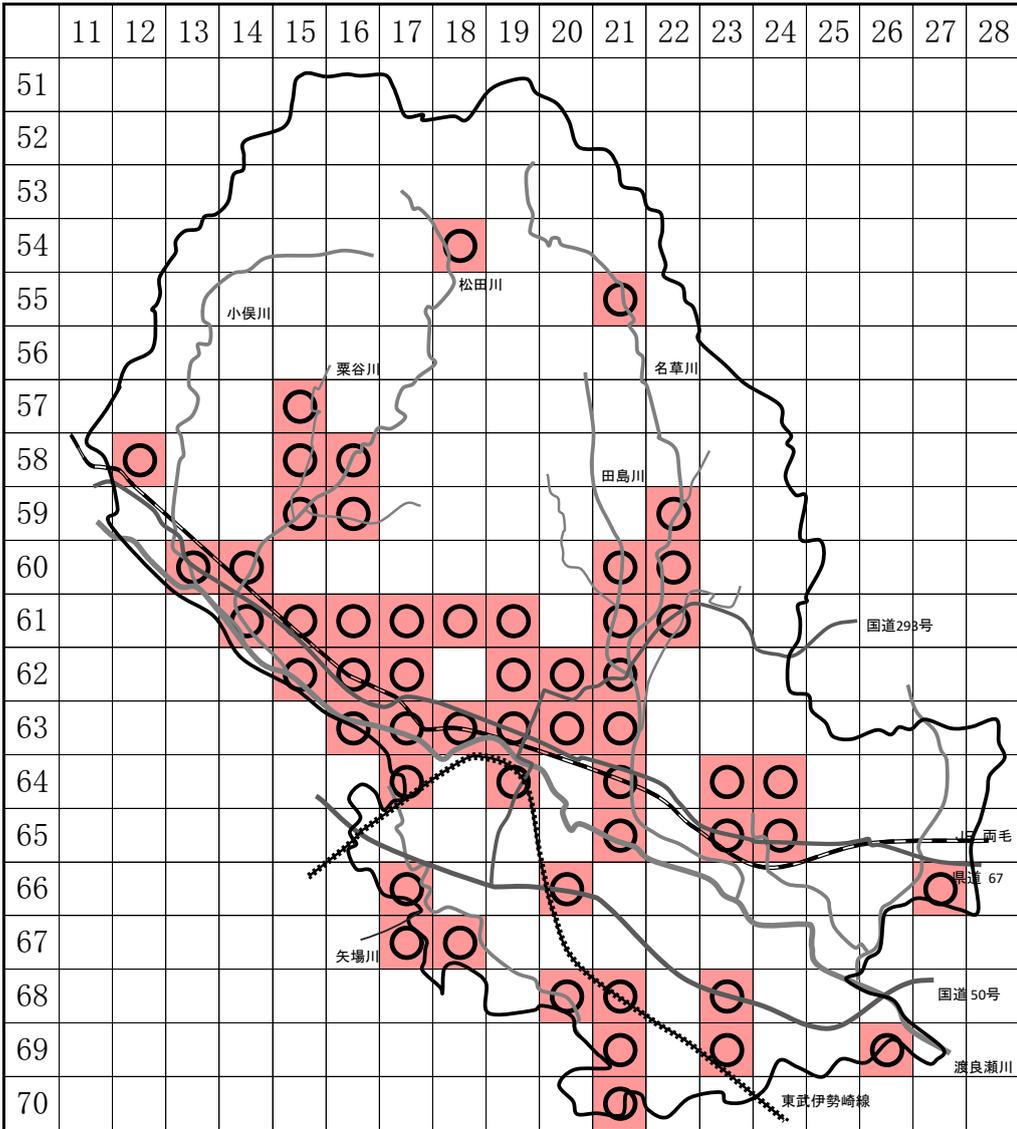
- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

ヒバリは春を代表する小鳥と言えるでしょう。さえぎり続けるヒバリの声は昔から多くの人たちに安らぎを与えてくれています。開けた明るい所を好み、山林にはいない鳥と言って良いでしょう。渡良瀬川などの広い草原、広々とした耕作地、芝生のような環境を好み、日脚がのびる3月頃から鳴きはじめます。河南地域ではほとんどのエリアで確認されています。

ツバメ	確認数： 53 メッシュ
	報告数： 53 メッシュ
	2020年度 53/57 2019年度 70/71

※過年度 確認数/報告数



ひとひとあいに愛され、しした
 人々に愛され、親しまれてきた夏鳥である。のどがあかちいろでせ
 中が黒く、尾は長く二つに分かれている。毎年3月末から4月にかけて飛来し、軒先に土で巣を作り繁殖し、9月ごろ南へ渡っていく。

ツバメに似た、腰の白いイワツバメや、腰が茶色のコシアカツバメも見られるので、注意して観察しよう。

かんさつてきき
観察適期
 4月～10月

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

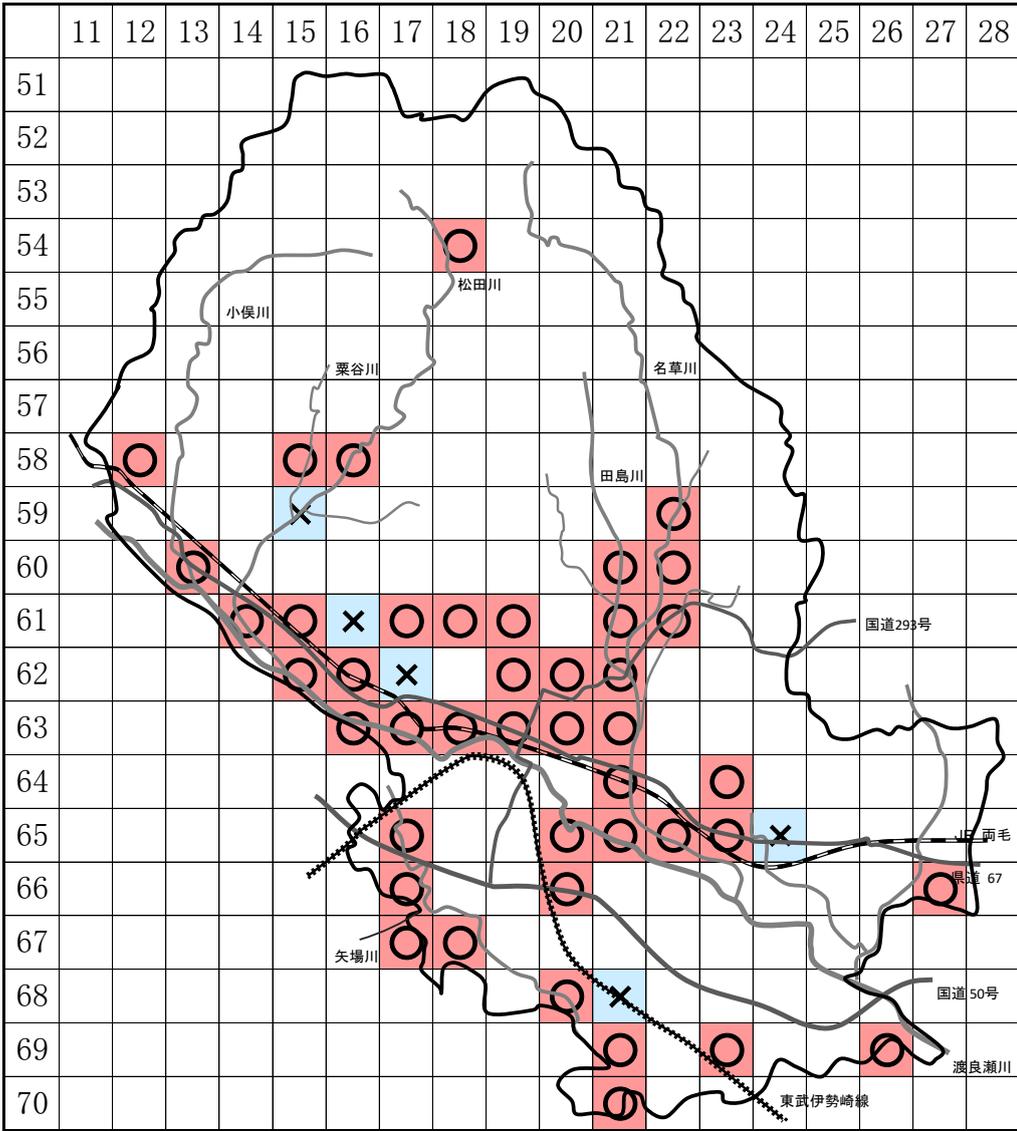
調査結果

かくにんりつ 確認率100%は大きな喜びですが、何よりもレポーターの皆さんがツバメの特徴を知り抜いている結果そのものでしょう。

みせがしまってしまい、市内のメインストリートでは巣の数が昔よりだいぶ減っているとも聞いています。

オ ナ ガ	確認数： 43 メッシュ
	報告数： 48 メッシュ
	2020年度 43/47 2019年度 42/59

※過年度 確認数/報告数



キジバトくらいのおお
 大きさで、頭が黒く、背
 中が灰色で、水色の尾
 羽が名前のとおり長い
 のが特徴である。樹の
 多い市街地や村落の樹
 上に巣を作り、昆虫や
 木の実を食べている。
 年中、「ゲーイ、ギユ
 ギユ」と鳴きながら、
 十数羽の集団で行動
 し、関東地方ではふつ
 うに見られる。

かんさつてきき
観察適期
 ねん かん
年間

- ・生き物が見つかったメッシュ ○ 印で表示
- ・生き物が見つからなかったメッシュ × 印で表示

調査結果

特徴のある大きさ、体形、鳴き声で昔から親しみやすい野鳥として見つめてきました。
 明るいグレーの体色、長い尾、黒い頭、特徴のある鳴き声、見誤ることはまずありません。
 市内の広い範囲に生息しています。奥山よりも平地、人里を好むようです。